

令和元年度 第2回 公立大学法人長野県立大学評価委員会

日 時：令和元年7月31日（火）15：30～17：30

場 所：長野県庁議会棟3階第一特別会議室

公正な評価のため、評価に関わる部分の発言は●●委員と表記しています

1 開 会

○新井企画幹

それでは、定刻となりましたので、ただいまより「第2回公立大学法人長野県立大学評価委員会」を開会いたします。

本日も委員の皆様全員にご出席いただいておりますので、ご報告させていただきます。

また、本日の会議も公開されますので、議事録の作成のため、発言の際は、おそれいりますが、マイクをご使用いただきますよう、お願いいたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきたいと思いますが、今回の冒頭のあいさつは省略させていただき、早速、議事に入ってまいりたいと思います。

それでは、以降の議事の進行を山沢委員長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

2 議 事

公立大学法人長野県立大学の平成30年度業務実績について

○山沢委員長

それでは議事を始めましょう。暑い中、本当にご苦労さまでございます。

前回の委員会で、報告書の内容につきまして、大学事務局から説明をいただきました。その後、委員の皆様方にはそれぞれの項目について評定をつけていただいたということでございます。ご苦労さまでございます。

本日、皆様からいただきました評価を、事務局で集計して表にさせていただきます。1番から75番までの小項目、これを順番に協議を進めていきたいと考えております。

先日、沼尾委員からお話ございましたけれども、初めてのことということでございますので、一旦、全ての項目ごとに、同意をいただきながら進めていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

始まる前にひとつ、評価をつけていただきましたら、集計表とご自身の評価が異なっているとかがございましたらご遠慮なく、当たり前ですけれどもご指摘をください。この場で評価を変更する場合も、その都度おっしゃっていただいても結構でございます。よろしくお願いいたします。

なお、この集計表と各委員のコメントは、以前からお話いただいておりますとおり、公正な評価のため公開しないということにさせていただきます。しかし、個々の委員の評価は全体評価に影響しますので、変更の場合は、お手持ちの集計表を修正したいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

それでは集計表をご覧ください。1ページから始まって、28ページものでございます。

見ていただきますと、1ページで左、小項目No.2になっていますけれども、この2に丸がついておりますけれども、こういうふうに丸がついているもの、その後のページをめくっていただきますと、いろいろ出てまいります。丸のついているのは、大学の自己評価と評価委員の評価が異なっております項目を示してございます。

丸の項目、小項目は31ほどございます。丸のついていないのは、おわかりになるように、自己評価とそれから皆さんの評価が同じだというものでございます。

したがって、丸のついていない項目については、サッと議論を早めにしていただこうと思っております。とは言いながら、今回、初めての評価づけでございますので、コメントが必要な項目もございましょうし、是非、ご発言をいただきたいと思えます。

私としましては、丸のついていない項目でも、随時、このコメントは入れましょうというふうなご発言をしていくつもりでございます。だから、丸のついていないのも全く考えないで、そのコメントについてはそんなことを、そういうことを言ってもいいだろうということもお考えを、ひとつよろしく願います。

私に与えられております時間は、丸のついていないほうが1分、ついているほうが3分とです。かなり難しい時間配分ですが、ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

それでは、項目1をご覧ください。小項目10番でございます。これは皆様aということでございます。したがって評価委員会もaということになるわけでございますけれども、いかがでしょうか。

基本的には評価も同じ場合には、委員の皆様にごコメントとして、結構お話をいただいたところなんです、特に進言がございませぬ場合にはご記入をいただいているわけでございます。黒四角は私、それから評価委員のコメントのところでございますけれども、黒菱は、これは沼尾委員がこういうふうな意見を言っているということでございます。

ということで、最初に申し上げましたように、評価委員会としては、多分aだろうというふうに考えられるわけでございます。

大学の自己評価と同じでございますけれども、コメントとしては、私としては、私の言っていることは大したことはございませぬけれども、沼尾先生は大変いいことをおっしゃられて、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）、大学教育で、これアドミッション・ポリシーについても、評価基準の中に記載してよいのではないかというコメントをつけたいと、私はそういう、このコメンタリー、非常に有用だと考えてa、しかし、コメントとして、このアドミッション・ポリシー以下、これをつけるというようなことで、いかがでございましょう。

（異議なしの声あり）

よろしゅうございますか。はい、だんだん慣れてくると、また、「もう一回戻れ」なんていうお話でも結構でございますので。

次に第2項でございます。これは丸がついております。見ていただきますと、●●委員がaだということ・・・

○●●委員

委員長、すみません。これ単純な入力ミスで申しわけないです。これ s で入力してあり、入力ミスなので訂正させていただきます。

○山沢委員長

皆さん、訂正をよろしくお願ひします。s ということ、委員の皆様全部同じであるということです。

コメントとしては、●●委員のがいいのかなと思うんですけども「大学の目玉になる取組である」、「ここで得られた情報の共有と展開が課題である」ということで、課題もきちんとご指摘いただいていますので。目玉という言葉をやうやく言っただけでも・・・違ふんですか。

●●委員ですか、ごめんなさい、失礼しました。そうですね、三角、半分でしたね、すみません、ひし形です。すみません、その辺を、事務方が少し苦労している、目玉のところはいいですか、よろしくお願ひします。

次は3番でございます。これは●●委員の・・・

○●●委員

これ入力ミスで、私のファイルはaになっているんですが。

○山沢委員長

ああそうですね、はい。ではaで、それから、そうしますと●●委員がsということでございます。

●●委員の評価のコメント、一番下を見ていただきますと、これからの日本人にとって、大切な能力を養う訓練をいち早く取り入れて実施したという点で評価されて、s というふうにしていますけれども。全体としては、aのほうが多いんですけども、この点、いかがでございますか。

○山浦委員

私は、今の大学教育を、実際にほかのところはどうやっているかよくわからないもので、私が学生時代のことを思い出すとそうことで納得します。

○山沢委員長

もし、よろしければ、この●●委員のコメントはうんと褒めていらっしゃいますので、こういうコメントもある中で、全体としてはaであるというふうな評価でもよろしゅうございますか。やっぱり褒めないといけないですものね、コメントは。

ではそこは、今、申し上げましたように、●●委員のコメントを入れた形で、aの評価だというふうになります。

次は4番でございます。4番、これは●●委員がsということでございます、s 評価で、あとはみんなaでございます。

s 評価のコメントといたしましては、斬新な教育に果敢に取り組んでいるということで、高く評価されているようでございます。この点はいかがでございましょうか。

○●●委員

これも前回のと同じで、今の実態はよくわからないものですから、多分、これ、ほかの大学、みんなやっているとすれば、あまり斬新じゃないかなと思うんですが、私から見れば斬新なんじゃないかというふうに思いましたので、s にさせていただいたわけでありませう。

○山沢委員長

はい。あとは沼尾委員がですね、クラスによって実施方法や内容に差があることが想定されるが、情報共有が図られているかが課題と、同じようなことは私も言っていて、成績の評価というのはまた大変だというふうなことを指摘しつつ、●●委員にお願いして、a 評価ということでいかがでしようか。

(異議なしの声あり)

では、そのようにさせていただきます。

次は5番でございます。5番はこれは、5番は●●、全部a ということでございます

コメントとしましては、私のが二つ入っているんですけども、この●●委員のは非常にこう、下のクラスのレベルに諦めさせないようにという、やさしい配慮があるんですけども、そういうふうな、ここはコメントを入れるということで、どうも2つ入りそうなので、英語の担当教諭には非常勤講師のほうが、教え方や工夫など統一感を持って実施することが必要だというふうなことと、下のクラスのレベルに諦めさせないように行うこと、というふうなコメントを入れて、a ということでよろしゅうございませうか。

(異議なしの声あり)

ありがとうございます。

次は6番でございます。これは法人評価はa でございますけれども、●●委員がb というでございます。

●●委員の評価、ちょっといただいているんですけども、この点、●●委員、いかがでございませう。

○●●委員

すみません、これは4月にガイダンスをやって、その後、10月に指導したというふうに書いてあるんですけども、ちょっとその指導内容というのが、具体的にここだけではよくわからなくて、本当に一人一人の学生にとってどうだったのか、こちらにも山沢委員長もお書きくださっていたり、個別の指導体制と意味で、ここで狙いとしているのが、学生の興味・関心、将来に応じた履修指導というのが個別指導を狙っているのか、とりあえず4月と10月にガイダンスをやりましたというところなのかが明確に見えていなくて、全体像の、大学の全体像からいけば、特にこの後半の中段、ガイダンスというよりは本来なら

ば個別、もう少し個別にあわせた指導ということを考えてのではないかなというふうに、全体のことを考えると、そういう方向性も望ましいということなのかなと思ったので、学科において丁寧な履修指導等を行ったというふうに、cのところですね、とありながら、結局、ガイダンスを2回やっただけなのかなと。非常にさっぱり読むと、4月と10月のガイダンスを行ったというふうに読むならば、それは目的から見れば不十分ではないのかなと。

○山沢委員長

ここは個別指導でしたっけ、そのところがはっきりしなかった・・・何か実績の表が出ていなかったかな。

○生駒委員

今日は大学というか、法人側が出席されていないんですね。

今まで十分な説明をいただいている、追加質問をさせていただいているんですけども、その、私の回答を保留している箇所も、お答えがないままなので、回答ができないんですね。なぜ今日は、大学側が出席していないのでしょうか。

○事務局

すみません、ご質問をいただいている部分、もちろん承知しておりますが、本日は皆さんの評価をさせていただきたいという主旨でございまして、もし、さらに今日、ご異論が出たり、あるいは今までいただいているのが解決していないという部分があれば、それはまた改めて、この場ではなくて、メールでご回答をさせていただく中で対応したいというふうに考えて、また、最後はこちらの19日、もう一度、評価委員会をさせていただきますので、その場でのお返しということも考えているところでございます。

○生駒委員

一応了解しました。事前に説明を求めているもの、時間があつたにもかかわらず、これまで回答がないんです。それ、どういうスタンスですか。この回答はそんなに時間がかかりませんよね。だから私は4回目の追加質問をしているけれども、ほかの委員の先生方は事前にやってらっしゃると思うけれども、今日も大学側に聞いたかったのは、この我々の評価委員会をどのような理解をしているのか。

知事から委嘱を受けて、知事なり、議会なり、県民、その他に代わって質問しているにもかかわらず、お答えがそつけないんですね、本当に。

私、知事に代わって質問をしているつもりなんですけれども、県民に代わってね、でも、ああいった回答しかない。教えてくださいと何回も言っているのに見せられないと、どうということですか。

監事さんなり内部監査なり、どの程度、どういうふうに行っているんですかとお聞きして、計画書を見せてください、あるいは監査報告書の他にも意見書が出ているでしょう。それも見せてもらえないんですよ。知事の承認が得ていないというんだけれども、我々の委員会をどう考えているのか聞いたかったんですけれどもね。

今、この場にいらっしゃいますので、どうでしょう。

○山沢委員長

今のことも含めて、この後、大学側に改めていろいろお聞き、問い合わせをするということで、今の項目を一つ入れておいてください。

それから、6番について、●●委員がおっしゃっていますけれども、全体ガイダンスとは別に個別ガイダンスを確立しているのかと。ここは知りたいということで、ここもお問い合わせをお願いしています。それによって、bかaかを決めたいと、ここはそうしたいと思います。●●委員よろしいですか。●●委員、いいですか。

はい、次は7番で食の健康、これはaということでございます。そろっておりますので、よろしいですか。

コメントとしては、学校給食センターに行かせているんですよね、何かやったというだけなんですけれども、その辺、ちゃんと学生の反応等をまとめたものがあるのでしょうかというふうなことを、ちょっと心配だったんですけれども、その辺も聞いて見てください。評価はaで結構です。コメントをつけたいので、はい。

次は8番「こども学科」ですけれども、全員aということで、これは評価はaでよろしいかと思えます。

これ保育なんですけれども、確か、私、細かく言って申しわけなかったんですが、保育臨床のこれ実技なんです。1年生はやらないんですよね。

前の食健康学科は1年生のときから実技をやらせていて、子ども学科はやらせないというのはまだよくわからない。1年生を子どもに合わせるとまずいからですかね。何か、その辺がどういう、何かカリキュラムがあるんですか、その辺の疑問を持っているということでコメントをつけたいので、そこをお願いしますと言ってください。

次は9番でございます。法人aで、委員のほとんどはaなんですけれども、●●委員がsということで、これは学校の努力により目的を達成したと、全員参加であるということでsだと。海外プログラムの、学生を派遣するための事前プログラムですね、ということでございます。県内施設の見学ということで、きちんと出たということで●●委員がsということでございます。いかがでしょう。

これ、学校の努力により目的を達成して、全員参加であったことは認めるとしてaというふうな評価でよろしゅうございますか。

○●●委員

評価するのはいいんですけれども、これ全国から、なかなか、独創的なことをやっているなどと思って、そういうことであります。

○山沢委員長

今、多分、●●委員がおっしゃったのはきちんと、珍しい、大変有益なことをやっているという評価もあるということで、その上でaだということになると思います。それでよろしゅうございますか。

次は10番でございます。法人は、大学はbというふうにしているわけでございます。こ

れいろいろこうばらっているんですが、●●委員がbで、それから●●委員は、まだ評価をいただけていないということなんですけれども、この辺、まず●●委員から。

○生駒委員

この判断基準の記載だけでは判断ができない、なぜbなのか、aでないのか。

それと非常に、頭の中では何かと比較したり、何か不足していたとかか考えてbにした。それお気持ちはわかるんですけども、その理由が書かれていないということ。

bだったのは課題をね、何が不足しているのかとか、課題を解決して、それが31年度の計画に反映されていないんですよ、30年度の評価でbとc皆さんが、自己点検でつけたのに、31年度の計画で、また同じことが書かれているんですよ。

問題はb・cだと言っているのに、何で改善策とかが書かれないのか、それは、なぜbにしたのかが判断理由を書いていないからだと思うんですよ、よくわからないけれども。

○●●委員

そのとき大学は検討の仕組みがないということで、b評価ということで・・・

○●●委員

なぜか評価がaになっているんですが。

○山沢委員長

●●委員はb評価ですね。したがって、それとa、それから評価なし、それからb、b、aというところがございます。

検証の仕組みがないから、そうか、そうだったのか、ではしようがないのかというので終わっちゃったのか・・・

○山浦委員

どうですかね、内容から言って、aというのが標準というのか、普通ということなんです、多分。やっているんですね。前に申し上げただけですけども、bとかcというのはやっぱり足りなかったのだと思います。これ書いてもらわないと、この前も私、申し上げたと思うんですが、どこが足りなかったからbにしるというのはやっぱり、やっていたとかやったということで、そこら辺がよくわからないから。

○生駒委員

大学の業務実績報告書を見て評価しなさいと書いてあるんですね。評価委員会の評価に関する基本方針にね、だけど、一般市民がこれ見て、何でbなんだろう a なんだろうというのがわからないと思うんですよ、と思ったから、私は保留したんですけど。

○沼尾委員

ちょっと推測の域を出ないんですけども、おそらく中期計画の中で、ここだけが数値目標が明白で、TOEIC600点以上を目指すということを掲げられていて、その目標につ

いて、週4回授業を行って、何というんですか、読む、聞く、話す、書くをバランスよく向上させるということを目指したんだけど、その読む、聞く、話す、書くをバランスよく向上することができたかどうかを、評価するための仕組みがないままこれをやってしまっているから、その仕組み自体を、これから検討していかなければいけない段階にあるのでbにしているという、そういうご判断だったんだろうなというふうに、私は前回の話を聞いて理解をしたんですね。

○生駒委員

あるいは、合格点にいかなかったんでしょうね。

○沼尾委員

普通はというか、行かないため、これ高い目標なので・・・

○生駒委員

だから、目標に対して達成していないから、ということですかね。

○沼尾委員

ということか、多分、それに向けたプロセス自体も、兼ねる上でのその指標自体もまだできていないことで、大学はb評価にされたんだと思うんですけれども。ただ・・・

○生駒委員

そう、それを見れば・・・

○●●委員

納得しますね。私もbにかえたいぐらいだな。

○沼尾委員

多分そういうこと、前回いただいている、この自己点検評価報告書によると割と解説が書いていて、むしろこれを見ながら判断するべきでしょうか。

○●●委員

ちょっとまだこれ、二人、bに回してbでいきますか。いいですね。

では、私はこれをbに変えます。●●委員もbでいいですか。

○生駒委員

今のような説明が大学からあれば私どもも納得する。ただ推測の域ですからね。

○沼尾委員

そここのところを確認していただくのがいいんだろうということと、逆に、ここはそのTOEIC600点という数値目標が明確に出ているので、かなり精密にこのプロセス自体、検



証できるんですけども、それ以外のところが、数値目標が非常に曖昧なまま何かこう、雰囲気ですと、何かゼミをやりましたとか何とかと書いてあるんですけども、何かそのゴールがちょっとすごく曖昧で、何か計画自体の何か目標がすごく、まだらな印象もあって、そこは多分、全体としてこれからの課題になるのかなとは思いました。

○山浦委員

ここは多分、売りなんですよね。

○事務局

すみません、これが2年次終了までにとというのがございますので、まだそこが、検証し切れないという部分はございます。

○●●委員

まだ私は今年はいかなくても、多分、600点にいてない人もいるかもしれない、来年、いけばいいんじゃないと思って、私はaと書いたんですけど。

○沼尾委員

だと思っんですけども、結局、やっぱり平均が600点というのはかなりこれハードルが高くて・・・

○山浦委員

最低なんです。

○沼尾委員

最低なんですか、相当高いですよ。

○山浦委員

だって600点以上・・・こういうことを言っているんですね。

○沼尾委員

そこに行くためのプロセスを、評価する指標がないこと自体を問題にされたということですよ。

○生駒委員

今のコメントは重要じゃないですか。

○山沢委員長

今のはこれでいいですね。プロセスが大切だということでbにしましょう。bというふうな意見でよろしゅうございますか。

(異議なしの声あり)

○山沢委員長

次は11番でございます。これは皆さん a ということでございますので、これはこれで結構かと思います。

●●委員が、評価が s でないのは TOE I C の結果が著しく、よくはなかったからなのかというふうなことなんですが、先ほどのコメントも一緒にというふうなところでよろしいかと思います。

次は12番でございます。ホームページの開設なんですけれども、これは●●委員が b ということでございます。●●委員のコメントとしては、開学前のホームページ開設時の情報と教員に関する情報に変化がない。先生方が、開学後、どのような講義や活動を行っているかが不明であると。

○●●委員

すごくシンプルに言うと、あのホームページは平成29年度事業であって、平成30年度は何もやっていないと見えるのですが、本当に平成30年にこのことをやったのかどうかというと、あれは平成29年度の開学前にやっただけであると思うので、その開学前の PR 用の先生方の県の写真と、こんなことを目指したいと思いますは書いてあって、何をやっていきますというのは全く書いていないので、全部見ました。

なので、それでこれ平成30年にやりましたと言われても、それはちょっと違うんじゃないかと思った次第です。

○●●委員

それを聞いちゃうと、b かもしれないなど。

○山浦委員

いやいや、このところは、釈明するという意味がわからないんですが。

●●委員の言うとおりでとすれば b にしますか。では、これ確認してもらってね。

○山沢委員長

そうですね、確認したいと思います。ここは確認によっては全員 b にかわると思います。すみません、よろしくお願いします。

12番は、ただいまの●●委員の解釈というのが正しいかどうかを問い合わせをいただいて、それによっては、そうであるということであれば全員 b というふうな可能性もあるということで、よろしゅうございましょうか。

確認は私がするというので、よろしゅうございますか。もちろん、●●委員にも連絡は取りますけれども。

○●●委員

最新情報の更新は確かにされています。何をやるというトップのところ、それ以外は手つかずじゃないかなという、大変失礼な言い方なんですけれども、ちょっとそれはこれに

当てはまるのかどうか。

○山沢委員長

次は13にまいります。よろしゅうございますか。これは、法人も委員もsということでよろしゅうございますね。評価はsということで。

入試広報としては大変、入学希望者、競争率も高かったということでございますので、結果もいいということで、一応そこは認めるということで、コメントも、この2つを並べて書いていいかなということで、s評価します。よろしく申し上げます。

次は14番でございます。14番の編入学ですけれども、これは次の15番も同じなのですが、まだ開学で2年で編入学が3年ですか、まだ1年ぐらいあるんですかね。これ、初年度の評価ですからまだ2年ある状況です。それから単位互換については、確か来年度あたりから県内の大学コンソーシアムで単位互換を始めようというような、やっとそこまで来たということで、中の細かな話というのはまだ進んでいないんですけれども、そういう観点からを早いと見るか遅いと見るかで評価がbとaになるわけですけれども、法人のほうはもっと早くにやるべきだったというふうに思っご自分たちはbというふうにつけたはず。私はその辺、何となくわかっておりましたので、そんなに急がなくてもいいんじゃないということで私はaにしたわけですけれども。この辺は、私としてはいつもの皆さんの意見と合わせたいというふうに思っておりますけれども、いかがでございましょう。

○●●委員

これも大学の話を聞かせてもらわなければわからないですものね。

○●●委員

指摘がないから、それはね。

○事務局

前回の大学の説明と、まさにこの検討をちゃんと進めると書いているのに検討、その端緒にたったことしかできなかったというようなことを、口頭では申していたかと思しますので、少し、ここを厳しく見たのだらうというふうに考えております。

○山沢委員長

では●●委員、bでもいいですか。

○●●委員

bだっていいですよ。初年度だからいいんじゃないですか。まだ初年度で困っているんだったら、こんなところ目標を立てなければよかったというふうになるわけですから。

○山沢委員長

それでは、私と●●委員はbに変わって、これでは評価はbということで、両方ともbということでございます。コメントは、すみません、厳しめに直してください。

16番、これはGPAなんですけれども、これbということでございます。bで結構だと思えます。

それで、問題はこの評価委員のコメントでございますけれども、大変よく書いてよく出ていて、全部こう並べていけばいいのかなと思うんですけれども。

1点、私、委員長として、●●委員のコメントがすごくよくて、前半はGPAなんですけれども後半ですね、入試においても同様であると、問題点をご指摘されているんですけれども、ここ入試の話なので、ここは・・・

○●●委員

座る場所がよくわからなかったので、評価にくっつけたのです。

○山沢委員長

そういう意味ですね。ここ、私はただ、何行目になりますか、8行目ですね、●●委員のコメントの8行目、入試においても同様である、特にと、こうずっと来て、受け入れるべきだと。全くそのとおりでございますけれども、ここはGPAに関係ないので、今回は省いてもいいんじゃないかなというふうに思うんですけれども。

○●●委員

どこか、座る場所がないと。

○山沢委員長

それはですね、入試に関して・・・

生駒委員

成績評価が独任制で教職員に任されているということを意味するわけですね。

多分ほかの、先生の対応はわかりませんが、それが実態だろうと思うんです。ただ、理事長は民間から来ているから良く分かると思うんですけれども、多分大学には、さまざまな問題があって、大学の常識だというのは、民間とはえらい違うなと感じているはずなんですよ。つまり、大学ではこれ普通で当たり前のことなのかもしれないんですけれども、ただ、私が見たところ、一部の大学では、二重チェックをおやりになっている。

その学生からの問い合わせに答えるというのは、これまさに優先してやることです。しかし申請主義というのはおっかないですよ。消えた年金問題の話にも繋がるものですから。

その辺が民間とはえらい違いですよ、内部統制がない、チェック機能がない、相互けん制機能がない、マニュアルがない、フローチャートがない、いわゆる内部統制の三点セットがない、地方自治法が改正されまして、これからの話だと思えますけれども、これはぜひ入れていただいて。

○山沢委員長

28ページ、一番最後のページに全体の評価、大変いい評価意見があります。いいという

のは、非常に重要な全体評価を生駒委員からいただいているわけでございます。

左側のほうは点検評価、自己点検評価とは何かというのをきちんと、明確にきなさいということ。それから右側のほうは、非常に今回、すぐれた点というのをわざわざ上げていただいて、その後で改善する、要する点というのがあって、このようなことが書いてある。ここの下にもう一つ入れるというのも、これは私、ぜひこの評価書の中で、項を一つ立てて是非これをつくりたいというふうに思っていますので、そこへ入れるということでしょうか。

(異議なしの声あり)

#### ○山沢委員長

もう一つ、全体評価の中の主な改善を要する点の中で一つ、つけ加えるということで、そういう方向でお考えをお願いします。

ということで、16はbということでもよろしゅうございますか。コメントも、入試の部分は、今、申し上げたように後ろに行くということで。あと文章を並べるといくのかなと。

次は8ページ、17番になります。これは大学の評価はaでございます。予習・復習でございますけれども、●●委員が評価bということでございます。

ここを、すみません、一つ理由、コメントとしてこういうところが問題だというような、ちょっとお話になっていただけますか。

#### ○●●委員

この計画のところでは、予習・復習等についてシラバスに記載するとともに、学部システム等を用いて学生に周知すると。つまりシラバスの記載と、学務システムを用いる周知と2つやろうとしているはずなんですけど、実際にやったことは予習・復習の内容について明記したシラバスを学務システムを用いて周知したと、簡単にいうと、シラバスを配ったというだけですね。

評価委員会の前に校内を歩いていて、学生さんの、ちょっとこういうところで戸惑っているとか、困っているというのが壁に貼ってあって、そこの中に、この予習・復習システムについての戸惑いを書いていただくと、やっぱり学生さんのお話があって、本当の意味で、このシラバスをただ、ここではシラバスにまず記載する、それから周知していくと2つのアクションを起こそうというふうに書いてあるけれども、実際にやったのは、シラバスをシステムで渡したというだけであって、本当に学生にとってこのシステムというのは、またこの学校の売りでもあると思うんですけども、それを理解していけるような取り組みというのがなされたのかといたら、単純にシラバスを配ったという、学務システムを使って配ったというアクションですよ、このまま。では、これは本当に目標に対する機能としては、単純で、アクションとしては非常に足りないのではないかとというふうに私は、学生担当評価も含めるとbかなと。

#### ○山沢委員長

そういうの(学生の声)を見つけたら、これもbなのかな。大学的にいうと、どうしても予習・復習の大切さというのは講義の中ではしゃべるんですけども、文章で出すのはこ

ういうシラバスの中で書いて、それを学務システムで周知するだけなんですよ。

そんなことがあっていいかなと思ってはいたんですけども、今、学生から疑問が出ているとなると、授業の中でももう少し予習・復習の大切さというのをきちんと周知する。周知というのがかかるわけですので、学習システム等を用いて、等ですから、これはきちんと授業の中で言うというのが入るわけですから、周知というところできていないんじゃないかなという、●●委員のご意見でございます。

#### 生駒委員

すみません、私も評価は変えていないんですね。この予習・復習の管理の把握というのが実態としてどの大学でもできているのかということ、大変疑問に思っているんですよ。それがそのまま単位を認定しているんですね、成績がですね。

そういう実態があるので、ここだけの話ではなく、この大学だけの話ではないので、法人の自己点検評価と評価を違えなかったんですけども、コメントのところはまさに、それは、あれ何ですか、単位認定の教育基準法か何かですか、決められていることが把握されていないじゃないかと指摘をしているわけです、私は。どうやって管理をしているのかと。これ、大問題ですよ。と思うんですよ、私は。

#### ○山沢委員長

これは一応、教員に聞いてください、今の質問は。どうぞ。

#### ○●●委員

すみません、ちょっと大学をかばってしまうところもあるんですが。

今、文部科学省からシラバスについて、15回プラス試験1回分で、毎回の予習・復習の内容についてきちんと明記をして、それを学生に提示するようにと。それは、フォーマットが出てきていて、その中でその予習・復習の内容についてもシラバスに明記して、それを学生のみならず、対外的に公表するというのが、どこの大学にも今、ふってきているという中で、教員のほうでも、これいかにその意識改革をしながら、シラバスの中に予習・復習も入れて体系的に入れつつ、それを学生に伝えつつ全体としての学習、学びというものをつくるかということ、チャレンジしていくというのが世の中の大学の全体の状況なのかなと。

そういう意味でいうと、当初の学務システムの立上げとその利用の仕方というのも、これ大学によって学務システムが違うので、それを新任教員に全部こう説明をして、それを使った情報を周知したり課題を回収したりするというシステム自体に、教員と学生が慣れるということだけでも、初年度かなり大変だったんじゃないかなというふうに私としてはちょっと思ったところなんです。

そういうことで、前回も申したんですけども、最初の1年目として、それがとりあえず円滑に立ち上がって、教員も学生もこういうシステムなんだねというところで使えるようになったとすれば、初年度としてはまずaでいいのかなというふうには思ったところなんです。

ただ、先ほどの●●委員のご指摘にもあったとおり、いや学生は当惑していて、必ずし

もやっぱり、あの情報としてはきちんと伝わってないんじゃないかとか、そういうところに課題があるのであれば、やはりそこは留意する必要があるかなと思うので、大学側に聞く必要はあると思うんですけども。

多分、このシステムが立ち上がって、みんながこのシステムを認識するということだけで初年度いっぱいいっぱいだったんじゃないかという、そういう感想を持っています。

○●●委員

一応、今の説明で、学務システムの中身がどの程度かわからないんですけども、それ次第ですよ。シラバスにはそんなに予習・復習のことは書きようがないので。

○●●委員

今、書かなければいけないシステムが・十分に活用されていないのではないかと。

○●●委員

いや、しかしそんな細かく、そんなに書けるスペースはないですよ。もう概略だけですよね。

○●●委員

そうです、そうです。

○●●委員

それはもう予習・復習しなさいと言っているだけの話ですよ。全然、意味ないですよ。学務システムの中でちゃんと指導しないと。

○事務局

ここも、よく確認させていただきます。

調べてみないとわからないんですが、例えばその学務システムに乗せて予習したものを提出させるというような先生もいらっしゃると思いますし、それがないと授業を受けさせませんという先生もいらっしゃるし、それは●●委員おっしゃったように、いろいろな先生がいらっしゃるんですけども、そこら辺の、達成度合いも少し聞いてみたいと思います。

○山沢委員長

本当は予習・復習というのを、ここで学務システムにくっつける必要はないんですね。これは文部科学省から言われているからくっつけただけだと思います。

予習・復習をやらせようとする、私の場合、授業では学務システムを使ってレポートを48時間以内に出させて、それを36時間の間にコメントをつけて返すというふうなことで、2～3時間は取るようにしているんですけども、という工夫は、また全然別の話なんですけれども、本当は。

だから、これは文部科学省の言ってきたのをそのままつなげてしまったんですね。まあ、

(法人に) 聞いてください、これは。それで a・b の判定は決めたいというふうに思います。

皆さんにこうだからこう考えるというような、一応私の意見をつけて a、b を選んでいただくようにしましょう、それでよろしゅうございますか。

次は18番です。今の授業のディスカッションの中、リベート等を含めて進化を図るということで、これはみんな a ということでございます。a でよろしいかと思えます。違うんですね、はい。

#### 生駒委員

私はとりあえず、法人評価が a だったので暫定で a を入れているんですけども、こちらのコメントの方に、実はこれ確認をしてほしいということで質問を入れていて、ディスカッションや、リアクションペーパーの活用がどのくらいなされているのかわからないし、学生からの授業アンケートの結果がどうなっているのかというところを見ないと、本当にこれが機能しているのかわからないということで、暫定 a なんですけども、むしろ、法人に確認していただきたいです。

#### ○山沢委員長

ということで、よろしゅうございますか。はい、では「暫定 a の確認要項あり」ということでよろしく願います。

#### 生駒委員

私のコメントを話させていただくと、今、山沢委員長がおっしゃったように、教員がそれぞれの学務システムをつかっている予習・復習をやっているんですが、そのこと自体の過程というか、そのことを目標として評価してほしいというのが私のコメントなんです。

実態としてはやらない先生もいるし、教員によってレベル感が全然違うと思うんですね、学部システムの方の、それを全部評価に入れてほしい。予習・復習って大事だと思うんですよ。ですから、このシステムを使って、リアクションペーパーとかね。学務システムをぜひ活用してほしいというのが私の意見です。

#### ○山沢委員長

今のコメント、コメントとしてすごいですね、きちんと解決して、且つ問い合わせもお願いします。それで、a か b かを決めたいと思えます。

次に19番でございます。大学院の設置でございます。これは一応、みんな a ということで、準備を進めているのはわかるというようなコメントぐらいでいいかなと思うんですけども、よろしゅうございますか。

次は20番にまいります。年度当初に、教員に対し学務システム、今の話のものですけれども、このシステムの操作に関するガイダンスを行うと、ともかく、●●委員は問題ありじゃないかということで、ここに、この右のところに星印のガイダンス実施のみ記載されていると。内容や参加率などの具体的情報がないと、実施のみであるから b 評価とさせていただきますというふうに、きちんとこう書いてございます。



この辺は（法人に）問い合わせを行うということで、●●委員いいですか。

○●●委員

今の先生方のお話にもございましたが、学務システムは教員の側からの情報発信として非常に重要な部分かと思うんですけれども、実績として「ガイダンスを年度当初に1回やりました。」で、いいんでしょうか。それでaと、100%OKなんですとあって、学生からも、ちょっと困っちゃっているんだけどというのを見ると、1回やりました、ということでa評価というのは、私としては実際に本当に学務システムが機能したと、そのためにこういう内容ですとか、こういう活用もしていますみたいなところについて、もう少し、「ガイダンスを行うという目標だから行ったのでaです。」としていいのかなというと、もう少し先生方に、本当に先生に対して厳しい見方かもしれないんですけれども、申し訳ないです。

○●●委員

いえいえ、私も同じようなコメントで、使い方ガイダンスと活用方法のガイダンスとしたので、本当に活用されているのかということは疑問が残ります。

○山沢委員長

活用方法じゃないんです。ふつう、こういうのは信州大学の場合は学務システムと言わないで、eラーニングシステムというんですけれども、eラーニングセンターというのをつくって専任教員が1名、専任の技術系の職員、それから普通の職員と3人置いて、常時オープンにしているいろいろ相談に応じているんですよ。そのくらい重要なはずなんですけれども、使い方を説明したってだめよね。本当は僕はそう思っているんですけども。

○●●委員

特に初年度の評価なので、初年度で学務システム、誰も慣れていないにもかかわらず、1回ガイダンスしましたとあって、a評価は私はちょっと甘いんじゃないかなと。

○事務局

要するにガイダンスを3回ずつやったか、あるいはそのわからない人に対するフォローができていたとか、そういったことも少し、もう少し調べまして報告申し上げたいと思います。

○●●委員

1点いいですか、今の件に関連して。自己点検評価委員会と書かれている評価というのが、この平成30年度計画に縛られてしまっているんですね。我々は全体の中での、中期計画の中での進捗度合いはわかっているんですけれども、文言どおり、ガイダンスを行うと書いてあるから、やったというからaなんですよね。

ちょっと計画に、書いてある文言に縛られ過ぎてしまって、全体で大学をよくしようという枠の中での議論がされていないように思うんですよね。この文言尻ですよ、これ捉え

ている、やった、やらないので、どうもそう感じられてしょうがない。

○山沢委員長

次は21番ですね。FD・SD委員会、これがね。法人の自己点検評価がcということで、これは評価委員もみんなcです。そうなんですよ。

これは、大学の初年度のところでFD・SDに出てこない教員、職員がいるなんていうのは信じられないんですけども、私としては、これはcということで、信じられないというだけなんですけれども。

はい、これはcということでよろしゅうございますね。コメントをもっと厳しくしなければいけなかったかな。

次のページにまいりまして、10ページです。22番でございます。

これは学生に対する授業評価アンケートの内容等についてですね、内容だけじゃないんだな、法人はaということで、皆さんaというふうにしています。

私の疑問は、何に使うために学生アンケートをやっているのという、そういうことをきちんとここから、少なくとも自己満足ではなくて、教員同士、ピュアレビューができるような厳しい目での仕様となるようにというふうなことをつけ加えました。

これは、事業評価をやったというだけで多分aなんじゃないかなと思うんですけども、というところでいかがでしょうか。よろしゅうございますか。

生駒委員

私はその点も疑問です。各教員に任せたといいんですけどね。だからチームとして大学は教育しているのに、チーム間での話し合いがアンケートに基づいてやっているのかという、教員にそのアンケート結果を促して改善しなさいよと、こういうのが来ているからと云ってただけに終わっているんじゃないかなという危惧はあるんですね。

それをもとに大学としてですよ、学部として、あるいは学科でもいいんですけども、そういう話し合いを是非やってほしいと思ってね、その辺の実態がわからないので追認型になっていますけれども、私なんかは。

○山沢委員長

少なくとも学科という単位では、そこはお互いに学科の各教員がどういうふうな評価を学生から受けているかというのは、教育しなければいけないんですけども、なかなか難しいですね。

生駒委員

それは大学の組織体質の問題なんです。

○山沢委員長

答えにくいところなんですけれども、私なんか結構言われたのは、人によりけりです。

○●●委員

平たい壁があるんですね。

○山沢委員長

そういうことですね。ここはaということ。

次は23番でございます。これがs、a、bと、いろいろな評価があります。

これ教員相互のピアレビューに関するものでございまして、私としては、まあやったということで、大学生としては能力開発を目的とする授業の方法として大きな効果が期待できるんですけども、ちゃんとやったらですよ。この授業法を、ほかの授業に展開する可能性はあるのかというようなことを聞いています。

●●委員は、協議会が専任教員を対象として月1回程度、開催されているが、教員の約4人に一人、27%が非常勤講師であり、教育方針等についての情報共有及びコミュニケーションが十分に図られているとは言えないと。非常勤講師を含む教員が一体となって、授業の内容、レベル、教科間のコミュニケーションを踏まえて、授業方針などを協議することが望まれるという、前々から●●委員が主張されているところでございます、という観点でなっております。

この点、どういうふうに聞いたらいいのかな。●●委員さんのご意見もこの時点ではまだいただいているんですけども、もし、よろしかったらお願いします。

○●●委員

こちらの大学側から出されているのは、教員の授業参観を行いということではあるんですけども、ここについて、きっとあのとき欠席させていただいたので、具体的に一体、何をどのくらいどのように行ったかというのはちょっとわからなくて、さっきも言ったように、大学を歩いているときの紙、学生からの話がいろいろ書いてあったんですけども、たらい回しにされた話があって、こっちの先生に言ってもわからなくて、こっちの先生にというふうに、先生方が互いの授業のことを全然知らなかったり、それからもう一つは組織の側のほうで、それぞれその組織間の中で、学校を支える組織間の中でも情報共有がなくて、そのあたりが非常に、私は今回、見ている中で、安藤理事長や金田一学長のすごいこう、トップの外への情報発信というのはものすごいものがあると思っっているんですが、中を支える仕掛けやチームとしての相互連携というのが非常に分断されている感があって、理事長や学長だけが頑張っていて何かちょっとバラバラなのかなという感じが、いろいろな中を歩いていると感じる点が多々あります。他の人が何をやっているかさっぱり知らないんじゃないかなというところを見る、コメントなどを見たところからいくと、本当にこれはやったんだろうかと、実態が生徒のほうに伝わるような形でというのは難しいかもしれないんですけども、少なくとも、ほかの先生が何をやっているかということについて、情報収集する前向きなような取り組みとなったのかどうかというと、ちょっとそういう意味で、私としては不十分さがあるのではないかという意味でbにしました。

私の頭の中には、初年度で1学年しかなくて、教員は4年制分いて、満ちていると、では、こういうところに先生方が出て、1年生、2年生のときにやはり大学でやろうとしていることとか、それからそれぞれの先生方がどう取り組もうとされているかということにまずは興味関心を持って、この1～2年、教える時間が相当少ないはずなので、その間

に研究をものすごい進めるとか地域連携を進めるとか、さらに大学が何をしようとしているかについて、自分をもっとコミットしていくとか、そういった姿勢というのはもっともところ、感じていいと思うんですけども。私の評価をしている中で、その一人一人の先生に熱意を感じるということがなくて、安藤理事長、金田一学長の熱意は感じるんですけども、そこがすごく、次年度へ向けての不安材料というふうに思っています、そういう意味で、ここについても本当の実態としては、次年度に向かっていけるような、教員相互の連携やチームワークを深めるような形で教科を超えて、非常勤だといっても先生方がこう、さらに連携を深めるような形で、この授業は重要なことなんじゃないかと思ったんですけども、そこがよく見えてこないの、今の時点では、大学の中の裏をうろろろしていても見えてこないです。

こういう行事をしていなくても、すごくたくさん先生の教員が空いていて、何もしていない教員がいっぱいいますね。授業している教室は非常に限られている。しかも、外からも見える。オープンな教室がいっぱいございますね。そういうところに他の先生が興味を持っていくとか、少なくとも私が行った日に限っては、そういう姿は一切見えないじゃないですか。だからやっぱりシステムとして、入れた者だけでも機能してほしいなと思うんですけども、そういう意味で、ちょっと大学の教員の方々の動きに対する、こう不信感まではいかないかもしれないんですけども、初年度なのに寂しいなと思って、そういうちょっと視点が違うところもあるかもしれませんが、そういう意味で、もしこの取り組みに対して、もう少し教員の方々が意識を持つべきではないかとは思いました。そこで、実態の見えないところもあるので、bとさせていただきます。

#### ○山沢委員長

私の記憶では、この発信力ゼミは4～5人の先生で担当するとかと言ってなかったですが、違うのかな。一人の先生方、もし複数だとすると、常時、複数の先生がそろってやっているのか、単にこう、かわりばんこに来てやっているのかというのは、一つ大きいところですよ。そこは聞きもれてしまいましたけれども、今、●●委員のおっしゃったこと、それから私どもが言っているようなところを少し聞いていただけますでしょうか。はい。それでこの判断はしたいというふうに思います。

発信力ゼミは、この大学のポイントなんだというようなことを盛んに理事長、学長、おっしゃっていましたので、ちょっと厳しく見せていただきました。

#### ○●●委員

大学側が期待している発信力ゼミに行っちゃうんですね、ここはどうなっているのだと。知りたい情報が入ってこない、発信ゼミ、他はどうなのか。

#### ○山沢委員長

そうおっしゃっても仕方ないです。確か何か、2人以上になるのかな、やっているんだけれども、その点、永遠とやっているというんです。当然、3人ぐらいがそのクラスに全員行く、3人揃っているんですよ。あと揃っていないのかな、人数多くていいんですけども。

次に、すみません、23番、意見をお聞きしてからと。24番はこれ全寮制の話ですね、法人評価はaということで、ほとんどaなんですけれども、●●委員が全寮制の中でルールを確立できたということで、これはよくやったというふうに評価していいんじゃないかというご意見でございます。

こちら辺は、こういうコメントをつけてaということでよろしゅうございますかね。

○●●委員

ええ、いいです。大学で全寮制というところはあるんですか、その範囲でも。

○●●委員

ありますよ。

○●●委員

あるんですか、今。

○●●委員

東京農業大学オホーツクキャンパス、1年生、北海道の。私立です。

○山沢委員長

私立です。あとは防衛大ぐらいです。そういう意味で、コメントで褒めたということでよろしいですか。

次はそのルールづけなんですけれども、私がこのsを取り消してaにすると全員aということで、コメントに入れていただければ、コメント、この3つ書いてあるんですけれども、このコメントを3つ、ちゃんと出した形でaというふうなことにいたします。

それからレジデント・アシスタントに関しても、このコメントを入れたところで、私の場合はaに変えてもよろしいです、●●委員もいいですか。

○●●委員

はい。

○●●委員

各委員の評価は変えなくても、全体評価を変えればいいんだと、無理やり変えなくても。

○山沢委員長

そうですね。

○山沢委員長

変えなくてもいい。でも、何かせっかく聞いているところだから、変えたほうがいいなと。ちょっと思い込みもあるから、まとめとしましては、24番はa、25番はa、26番はaで、各コメントは評価委員のコメントをきちんと並べて書くということでよろしいですか、

お願いします。

次は27番にまいります。●●委員はaなんですけれども、あとは一応、sということで、就学困難な学生支援ということでございます。

●●委員には、奨学金制度を利用した就学や留学支援が着実に進めるようにと。

○●●委員

着実には進められているんですけれども、やっぱり当初の予定どおりで、それを上回るsというところで、おそらく、学生支援機構の海外留学支援制度の給付型奨学金を取ったというところだと思うんですけれども、ある意味、学生支援機構、今、この海外留学のところは割と肝いりでやっているんで、本当に厳しいところを勝ち取ったというふうにあまり感じなかったというところもあり、まあまあ申請して取ったんだろうなということだとすると粛々とやられて、たまたま支援機構のほうのメニューでそういうものがあって、それも取りにいったら取れましたよというので、ということなんだろうなと思ってaにしたんですけれども。

でも、そこはやはり、当初想定していかなかった給付のものも取れたわけだから、sにしたいということであればかまわないと。

○山沢委員長

いや、もう一つがaなんですけれども、委員会評価としてはsでもかまわないと。

○●●委員

はい、大丈夫です。

○山沢委員長

ということです。次は、28番でございます。健康診断、これは全員aということですから、aということで、コメントも私のしか入っていないんですけれども、その辺、適宜書いてください。

それから29番は食堂の事業者と連携して、学生の適切な食生活、朝食、昼食の提供という、これはaということでございます。

それから30番、キャリア支援に関するアンケートをちゃんとやったというところ、これはsということでございます。学長の面談なんですよね、僕が思うにね、全員面談、大いに評価するということではよろしいかと思えます。よろしゅうございますか。

次は31番でございます。大学の評価はaでございまして、皆さんaなんですけれども、私はsにしまして、開学初年度にもかかわらず、学長は重点的な研究を指定して資金的に支援したというのはなかなかできないことだから、つい、同情してsにしましたということなんですけれども、これはaのほうが多いので、aという評価でお願いします。

次は32番、複雑化・多様化する課題に対応するために学問の研究や他大学との研究、共同研究ですね、これはaということで。

私、ちょっとこども学科の教員の共同研究件数が、共同研究件数が少ないんですけれども、気になるんですけれども。

その後続けて、●●委員が初年度としては十分というような、このコメントをつなげると、つなげていただいてaという、少ない学科はこういうのは早めに言っておかないとまずいのでね。

次は33番にまいります。学会誌、学術誌等における発表に加えて、県民に向けた研究発表、講演、ホームページなどにおいて、具体的でわかりやすい形の情報発信をするということなんですけれども、しているようには見えないのでbでございます。

○●●委員

いや、この点数が書いてあって、十分なのかなという判断をしなかったの。

○山沢委員長

あまりよくないんですよ、そんなに多くはなかった。

○生駒委員

いや、だから、皆さんそういうことだから。

○●●委員

すみません、よろしいですか。aで出しているんですが、逆にわからなかったのが、さっき別のところで申し上げたところともかかわるんですけども、この計画でのゴールがどこにあって、それとの見合いで、何が足りなくてbになっているのかというのがちょっとわからないままbにしておられて、そこの基準をちょっと明示してほしいという意味です。

○事務局

非常に面倒なことではないのですが、この間の発言では、件数はともかくとして、その発信をする、ここは法人に言ったのだけれども、その発信をホームページできちんとできなかったものが、非常に大学としては自己点検評価が低くなってしまった理由だというようなことで、確かにつながっています。

○●●委員

今、ここもそうなんですけれども、そういう基準を明示していただけると、今年はその基準に対してこうだからこの評価で、来年、それが改善したらaになるだろうというのはわかるんですけども、来年、また基準がわからないところがあるんですよ。

○事務局

どこまでつくれるのかというのは非常に悩ましくて、ここは正直、法人とも、●●委員からのご意見も頂戴していますので、そこはその都度、法人とも話をしているんですけども、なかなか・・・

○●●委員

でも、感じていらっしゃるんですね。

○事務局

感じています。感じているんですが・・・

○●●委員

それは見える化していないんですね。

○事務局

見える化するかというのは、ちょっと答えが見つかってないというのがはっきりいって、すみません、先ほどから●●委員には大分お叱りを受けているんですが、そういうところが多くて、やはり●●委員、きちんと明確に基準をつくるべきだというふうにおっしゃること、それはもちろん、私ども受けとめてはいるんですが、申しわけないんですが、この項目ごとというものは、なかなか難しいというのがちょっと今、実感のところでございます。

○山沢委員長

どうでしょうね、いろいろご意見があるんですけども、一応、bという評価でいかがでしょうか。●●委員、いいですか。

○●●委員

そうですね。ここでよくわからなかったのが、この自己点検評価を見ると、研究成果が発表で、学会発表が54件、論文等が62件というのがあって、あとは講演会・メディア出演186件という数字が書かれていて、それに対して、何でbになっているかということ、ホームページなどの広報の内容や方法の一層の充実を図り、教員の研究成果を具体的でわかりやすい形で情報発信するのが改善要求と書かれているんですけども、要するに一定の成果は出しているけれども、それが県民にわかりやすくなっていないところを課題にしているという理解でいいのであれば、それを多分、コメントに入れておいたほうがいいのではないかというふうに思いました。

○山沢委員長

今の●●委員のコメントをつけてbということでもよろしくをお願いします。

次にまいります。よろしゅうございますか。34番です、長野県に関わる資料の随時収集、資料を随時収集するというので、法人評価はaなんですけれども、私と●●委員以外はみんなbということで、このbで、●●委員は長野県のシンクタンクの機能の充実を順次、ちゃんと図ってほしいというようなこと、それからどのような観点で、●●委員でございますけれども、資料収集するのかの計画が不明で、統計データだけでも各市町村から集めれば77あるわけですけども、その半数程度で、とてもaとは言えないんじゃないのと、それから、●●委員からは、県の情報拠点として当初は40冊でいいのということですね。



各種、行政情報やウェブサイトの情報なども考えなくていいのではないかという証拠を持ったものということでございます。

○●●委員

これ大学側は、おわかりいただいたのは、特徴としてこのことをうたっているんですよ。うたっているのにかかわらず、40冊を集めたと言っているだけなので、ここは違うんじゃないかという話ですね。

中期目標項目、長野県立大学の特徴等に対し資料5という、確か長野県のシンクタンク機能・・・これ、やっぱり業務報告書とか、それとの対比がされていないんですよ、自己点検で。業務報告書というのは約束のことですよ、根幹ですよ。それが自己点検で見逃されているということは不思議ではないですね。計画的に、だからもうもう文字通り、それを評価するというのはおかしいですね。

○山沢委員長

それは、私、勝手に思っても、全く同じ意見でございます、これは法人がaと言っても、このコメントをつけてbじゃないかなと、委員会としては、というイメージでいるんですけれども、皆さんいかがですか。

(異議なしの声あり)

はい、ではそういうことでお願いします。

次は科研費の話で、これbで、全員bなんですけれども、事務局から、数値目標を80%というのに55%しか行っていないんですけれども、数値目標から見ても、数値目標をきちんと出してきちんと出していないというのがわかるような数値が出ているのに、bはないんじゃないかという指摘もありました。cが適当ではないかというのものもあるんですけれども、ここからは私の意見なんですけれども。

初年度で、昨年の秋前には科研費の申請を出さなければいけないんですけれども、新しい大学にお移りになられて、研究室の机もないんじゃないかなというふうな中で、なかなか面倒な申請書を書く気にはならないのかなというふうに思いもあり、bにしたんですけれども、その辺、いかがでしょうか。

本当はこれ、出すのが100%、100%超えてもいいという、一人二つも出し、採択率が70から80がふうなのですよ。

だからそういうふうな考え方でやっているとありますから、そういう意味では大甘なんですけれども、まあ初年度だからという視点で見ていくということでもよろしゅうございますか。あるいは、次年度以降のことを考えて、cに直しておくとか。

○●●委員

ここに網掛けがかかるというのはどういう意味ですか。

○●●委員

やらないと、客観的に独立した立場で第三者として外部委員会を評価するんですから、

それはcであってもいいのかもしれないと思います。

○山沢委員長

ここはみんなbにしているから、bというものに一応見ているとbかな。

では、ここはbということでよろしくをお願いします。

次は36番、これはソーシャル・イノベーション創出センターですね、これはaが多いんですけども、●●委員はbということで、すみません、お願いします。

○●●委員

一つだけ、シンプルに教えていただきたいんですけども、ソーシャル・イノベーション創出センターはどこにあるんでしょう。

○事務局

センターの部屋自体は後町キャンパスにございますけれども、そこに担当教員がおりまして、その教員は常に三輪キャンパスに行き来しており、いろいろと交流を図っています。

○●●委員

ホームページを見てもソーシャル・イノベーション創出センターというのはどこにもなくて、すみません、私が見たホームページが間違っていると思うんですけども。

どこにあるかというのを県民はどうやって知ればいいのか、窓口をつくったといっても、どこにあるんでしょうかというのが、県民はどうやって知ればいいのか。

○山沢委員長

39番でも、●●委員はそのことをピシッとかわられていて、ホームページから見ないと見つからないよとおっしゃられています。そうなんですよ。

○●●委員

中だけでわかっているというような感じで、外から見たときに、どこにあるかわからないので、外から、つまり窓口というふうに書いてあるのに窓口が見えない、ソーシャルイノベーション創出センターは、もうこのとおりに、本当に目的を果たしたのかというと、窓口が県民からは見えない。

○山沢委員長

ということをコメントでおっしゃられています。

○事務局

ホームページでは非常に反省しなければいけないので、きちっと改訂いたしますし、それから活動については、実はあそこに教員にいる以外に、各いろいろな地域に出張していった声を拾うという、御用聞きと申しておりますけれども、そういったコーディネーター的な役割の職員も配置しておりますので、この職員が声を拾ってくることによって、500件

を超える相談を受け付けていることは事実でございますので、一定機能をしているのかなと思っておりますが、今のホームページの件は、本当に反省するところでございます。

○●●委員

単に異なっただけの判断ですね。そうですね。

○山沢委員長

39番は、実際、ソーシャル・イノベーション創出センターで何をしているかという、窓口にいろいろな取り組みをしてくれというような人が、いっぱい来ていますよというふうな評価をしていて、これも●●委員は厳しく見られていらっしゃる。

それから41番では、これは市町村等との協力関係というのも、●●委員はaということで、やっぱり厳しく見られている、この辺、●●委員、できましたら、ちょっとコメントをいただければと。

○●●委員

私学ではなく、公立の大学であるということから、県民に対する周知とか啓発というのは意識的に行うべきではないかなというふうに思います。

やはり期待して多くの先生が県外から、いわば知の集積として新しい県立大学を立ち上げたというところで、ある意味、地域は木曾等にもということも書いてありますが、連携についてはどちらかというところ北信に偏重している、というところはあるなと思います。実際に学生を集める広報については、県内を相当、金田一学長が回られたというふうに思っています。

ソーシャル・イノベーション創出センターというものの存在そのものについて、初年度からそれは難しいことだとは思いますが、せめて県民のさまざまな方々に、こういった県としては、県立大学というものをつくった上で、地域ともっと想像的なことを行っていこうという取り組みをこう始めましたということについては、私はsの評価はできないんじゃないかなというふうに、まずは偏りがあるということと閉鎖的、ごく、先生方のある部分については動いたかもしれないけれども、県民が、では関心を持って見ようとしたときに触れないところで動きがあるので、そういったことをやったということをどうやって知ることかということ、偏りがあるんじゃないかなと。

初年度だからしょうがないとおっしゃるかもしれないんですけども、何回も言いますが、人件費、私は4年分教員がいらっしゃるのだから、相当な教員の方々の手が空いていると思っていて、大変失礼な言い方ですけども、もっと積極的にやはり県民へ向かってということも意識していただきたい。それがさっきの長野県の冊子、40冊で計画を達成しましたと、何か申しわけ程度に長野県って1行書いてあったら、もちろん、国際的にグローバルに物事を考えて行くべき大学としてのスタートではあるけれども、長野県、一人一人の税金によってつくられている大学であるということを、ではどういうふうにか、展開していくのかという意味で、ちょっと私は厳しめにここは全体につけています。

○山沢委員長

ただいまのご意見の中で、大学側に問い合わせをしてからというふうにするんですけども、県民、このソーシャル・イノベーション創出センターは、県民への窓口として、広く県内全域にわたって広報をしているのかという点は、ひとつ確認をしていただきたいと。

それから39、それから41にも出てくるわけですけども、業務的に成果が上がっているのが北信を中心になっているんですけども、その辺はこういうふうな理由だと、で、その辺をどう考えているのかという、次年度はもっと全部展開するんだとか、業種にもよるんでしょうけれども、その辺のコメントを、コメントに対する回答というのを大学、ソーシャル・イノベーション創出センターから聞いていただきたいというふうに思います。

それを見て、●●委員にご理解いただき、一応、数の多い表決にしたいというふうに思います。●●委員、それでいいですか。

○●●委員

前向きとは思えないですね。

○山沢委員長

前向きとは思えない、そうですか。では、その回答を聞いてからということで。

○●●委員

地域貢献ということは、今、非常に大学に問われているけれども、このぐらい1年目でやったら十分だと私は思っていますけれども。

○山沢委員長

これ、実際にやるのは一番難しいんですけども。

○●●委員

信大は非常に熱心にやっていたから、何度も言うようですが、評価ということは、これからも聞いたようなことは聞いて、大学のね。

○山沢委員長

県立大学ですからね、はっきり言って、県立大学の本部がここ長野市にありますから、どうしても今のところ、ここが中心になって動いているんですよ。それはやっぱりだめですよ。

産業によっては、全然、構成が県内違いますからね、そこをちゃんと見ていこうよというふうなことを、大学として見ていかなければいけないということだと思えるんですけども。その辺、少し、きちんと聞いて見てください。

○事務局

問われているんですけども、よく聞きたいところですけども、1点、ちょっとこれは、別に大学の見方をするわけではないんですけども、今、2年生までしかおりません

ので、例えば地域貢献で地域に出ていくとか、地域をフィールドにして学ぶというときに、やっぱり先生一人が出ていくというのではなくて、先生が学生を引き連れて学びにいくというスタイルが今のスタイルだと思いますし、そこからまた学生の学びも深まるし、地域の課題への解決というお手伝いもできるのではないかなということも思っていますので、そこは、すみません、来年、再来年とこう専門的なゼミに参加する学生がこれで出てまいりますので、より深まっていくということは確かにあるというふうに思っています。よく確認したいと思います。

#### ○山沢委員長

そういうことで、36番、それから39番、41番については、ただいまのことを（法人に）問い合わせをして、その回答を●●委員にきちんとお返しして、お考えいただくと。そこで、全体的な評価というのを考えたいということでもよろしゅうございますか。

#### ○●●委員

今年の入学者と県外者が初年度より増えている、それは県立大学の1年目の歩みが非常に素晴らしくて、こういったソーシャル・イノベーション創出センターの動きもあって、2年目、さらに難易度の高い大学に変化していらっしやると。

その中で、大学の活動そのもの、それから学生、だんだんこう地域から離れ始めていかないか、長野県民のため、長野県民が税金を出して長野県のいわば学生、長野県でやっぱり生きていく学生、そういったところの一番最初の理念みたいなものがどんどん長野県を踏み台にしてという非常に失礼な言い方かもしれないんですけども、返していくような動き、もちろんグローバルであり、他県からどんどん人材が入ってきて、素晴らしい人材が長野県という地域から生み出されていくということの素晴らしさと、では長野県という地域がもっと活性化していくために、どういうふうに大学や学生は地域と連携していくのかという意味でいうと、そのあたりがすごくバランスとしてあって、やっぱりこういうことで考えていかなければいけないんじゃないかなと思うので、先生方の頭の中に、やはり長野県（立）の大学であるということは、いつもどこかに置いていただきたなというところは、希望としてあります。

そういうことで、もちろん立ち上げるところの難しさ、すごくやっていらっしやること、私は別に評価していないわけではなくて、本当にすごくやってきて、それがゆえに長野県の他大学が、県立大学以外の大学が非常に危機感を持ってどんどんと大学を変えてきているというところは、前もこの評価委員会で申し上げた、素晴らしい成果だと思っています。

だからこそ、県立大学が長野県を40冊で達成したと思うような取り組みで動いていただきたくない、それがソーシャル・イノベーション創出センターにも期待するところです。

#### ○山沢委員長

ということで、（法人に）、きっちりと伝えてください。お願いいたします。

次は37番でございますけれども、これはソーシャル・イノベーション創出センターとはとちょっと違いますね、大学が中核となって地域の企業、大学、県、市、町、金融機関等々との連携ということなんですけれども。

これも●●委員はaということで、多分、今のお考えのところ、今おっしゃれたところが評価を、別にしないでおこなうというふうに思うんですけども、この点はいかがでしょう。ということで。

#### ○●●委員

はい、そうですね。包括連携協定、北信地域に、それはしようがないかもしれないんですけども、将来……

#### ○山沢委員長

北信が多いということ、学生が卒業してこう就職先がこう、大体広がると、すごく、その後、全体的に、あるいは全国的にこう広がっていくんですけどもね。ひとつ、そこはまだ、どうしても地域に目がなかなか広がらないところですね。この点はどうですか、sということではなくて、回答を待ちますか。

ソーシャル・イノベーション創出センターの運営に、これ大学本体がやっている事業ですよ。ということで、ではそこは逆に言うと、ソーシャル・イノベーション創出センターに聞いた回答も関与するということで判断を待ちましょう。

次は38番でございます。これは日本銀行の寄付講座を受け入れたという話が実績だということで、全員aということで、これはよろしゅうございますでしょうか。コメントはここに書いてあるコメントを入れていただきたいと思います。

それから39番は、先ほどで、コメントに対する回答待ち。

それから40番、地域連携の一環において、学生が社会貢献活動に参加する機会を設け、参加を促すという、このことに関しては、私以外はみんなaということでございますので、aでいかがでしょう、よろしゅうございますか。はい、ありがとうございます。

41番はコメント待ちでございます。

42番は同じなのかな、地域との関係づくりを進める中で、地域の状況に適した連携の形態をきちんと考えてほしいということで、多分、●●委員がさっきからおっしゃっていることじゃないかなと思うんですけども、これも、では回答待ちということで評価をしていただきました。ある程度かまわないということであれば、sをつけたいというふうには思っておりますけれども、それは回答待ちということで、●●委員に問い合わせをいたします。

次が43番、これは学生の派遣ですか、研修派遣ですね。これはaということで全員aということで、よくやっているというふうなことだというコメントを、ここで入れてください。aでよろしゅうございますね。

次は44番、グローバルセンターでの海外大学を訪問し、交換留学協定というようなことをやるんですけども、これaだということで、aでよろしゅうございますね。

ひとつコメントを、私が大学のグローバルな認知度を得るのは、交換留学協定ではなくて、それよりも学術交流協定というほうが締結校としては一つ上ですから、そちらも目指してください、というのを入れてください。

次は45番。リーダーシップの問題、これは全員aということで、a評価でよろしゅうございますね。コメントは全部、きちんと書いてほしいということでございます。コメント

付きでお願いします。

それから46番、これ事務処理の迅速化の話です。これもaということで、本当はこの辺は●●委員がいっぱいいろいろなことを言いたいんでしょうけれども、aということでよろしくお願いします。

47番、理事会・研究審議会、教育研究審議会の話、これは全員aということで、私と●●委員のコメントの記入をよろしくお願いします。

48番、全員aでございますね、これもaということ、会議の見直しは当たり前でございますので、特にコメントも要らないので、aということでもあります。

監事のこと、これは2つのコメントが入っていますが、これはぜひ、私のほうはどうでもいいから、この●●委員のおっしゃっていることは至極当然のことでございますので、両方とも書いてください、今回aということです。

次はFD・SDなんですけれども、これは21番でも話してはいますが、全員cということで、これはcだと思います。何回も言いますが、FD・SDを初年次にちゃんとやらないと、あとずっとやらないで行ってしまう可能性もあるので、その辺、よろしくお願いします。

次が51番、業績評価なんですけれども、bが並んでおりますけれども、●●委員は判定なしということでございますが、ひとつご意見いただけますでしょうか。

生駒委員

この判断理由のところだけでは判断できない。

○山沢委員長

ということなんです。

生駒委員

また評価が保留なのです。

お願いがあるんですけども、その大学との評価の違った委員に問い合わせ事項、回答も、ほかにもあると思うんですけども、情報を共有したいので、ぜひ我々にもメールアドレスの共有登録を流してほしいですね、ぜひお願いしたいと。

○山沢委員長

もちろんです。これは、それではこれは51番でございますけれどもb評価ということでよろしくお願いします。

次、52番は全員aということで、平成30年度の教員の授業負担等々でございますけれども、aということで、コメントがついてはいますが、これもぜひお願いいたします。

次、53番でございます。専門分野に精通した職員を確保し、機能強化を進めるため採用方針との策定を進めるということで、これは●●委員がbということでございます。●●委員は、1年生のみ受け入れている年次なのに、何でこういうことを、理由は不明確だ、欠員の追加、補充がということで、これは至極当然なんですけれども。

この辺はいかがでしょう、回答を。●●委員、お願いします。ここは。

○●●委員

すみません、私は、このご説明のときにいなかったかもしれないのでちょっとわからないんです。何で追加をしなければいけないのか、しかも26人も。

○山沢委員長

そういうふうにお聞きしたんですね。そうしたら何か言ったんだなと思って。

これはもう一度、(法人の) 玉井事務局長、玉井事務局長でなくてもいいんだけど、回答をよろしく願います。それを見て判断しましょう。

次は54番で、業務量等を考慮してということで、まだ職員が配置や分担を見直すということなんですけれども。

○●●委員

私はaをお願いします。

○山沢委員長

はい、わかりました。それではaということで、はい。

次、55番、外部資金、研究費ですね。これはaということで、コメントも2つございますので、つけてください。

それから56番、教職員のコスト意識、これも全員aでございますね。aで。このコメントは別にあまりよくないので、aにしてください。前のほうのコメントでよろしいかと思えます。

それから57番、他団体からの出資、これをきちんとやってくれと、透明性を持つてというということでaでございますけれども、●●委員から資金の性格的なものがよくわからない点があって、もっと明確化を図ってほしいというようなことがありますので、このコメントもつけていただきたいと思います。

58番、自己点検。これは、評価委員のコメントとして、自己点検評価というのはこうあるべきだというのが●●委員から出されておまして、これは、そうか書いていなのか。

一番最後のページの●●委員のコメントの中で、自己点検・評価委員会は平成30年度と書いてあるんですが、ここはまた違うことですよ。実際の評価をこうすべきだという、そういうことでございますよね。

生駒委員

はい、スケジュールについても、日常的に自己点検・評価というのは行うものなんです。そして、年度の間を過ぎたら、途中で一度その問題点なり、その課題なりが上がってきて、そして、それが次年度の計画に反映するとか、そういうふうにサイクルで回っているんですが、どうも年度が終わってから評価報告書をつくるためにだけ評価しているという感じがしてならないんですよ。

他大学はもうちょっと早めに、大体、8月に評価委員の報告が出るのですけれども、この実際の報告書だと6月、もっと前に終わっているんですよ。自己点検・評価会議が大



体5月に終わってしまっています。それで運営会議、いつ意思決定したかわからないけれども、我々に示すのもそのタイミングが遅いし、もっと前倒しでやってほしいんですよね。

○山沢委員長

ふつう評価担当の副学長とかというのを設けて、その人が、もう最初からいうと準備をして考えているのですね。そうでないと、今、おっしゃったように、次年度の年度計画が出るのに、今からでは。

生駒委員

いや、もう計画も発表されちゃっているのです。全然反映されていないんですよ。このb評価とかc評価というのは。

○山沢委員長

時間的によくない。

生駒委員

みんな日常的にやるものだという理解が少ないんじゃないのかな。要するに県に出す報告書をつくるためにやっているのと。

○山沢委員長

初年度はないと思って。

○●●委員

タイトルの中で。

○事務局

今のはすごく重要なお指摘だと思いますので、大学のほうにきちんと伝えてまいりたいと思います。

○山沢委員長

それ、伝えてください。

○事務局

それから、やっぱりご指摘のとおり、初年度ですので立上げが遅れたんだと思います。

○山沢委員長

というのものもあるんでしょうね。

僕はこの、58ページのこの「自己点検・評価は」で始まる、これ、やっぱり最後の28ページの●●委員のコメントの中に、下か上か、どっちかにこうひとつ加えてください。自己点検評価、こうあるべきだということを提案されていますので、よろしくお願ひします。

ということで、●●委員、これaでもよろしゅうございますか。はい、aでございます。  
59番はホームページでうまくできていないけど・・・bということですね。全然、手が入っていないんですね、bということでございます。

○●●委員

今、aというのはこの会議としての・・・

○山沢委員長

会議として。

○●●委員

私のほうはb・・・

○山沢委員長

委員会としてaでよろしゅうございますか。

それから、60番は大学ランキング等のデータに着目しという、大学の評価ですけれども、これは全員aということで、委員会評価もaと、コメントはつけておいてください。

それから61番、その他の業務に関するところなんですけれども。これアリーナとか、ミーティングルームの使い方ということで、ここではaということです。

それから62番、これは学内の学習支援に資するICT環境とかWiFiとか等々があつて、糸魚川、ここに書かれていますけれども、そこを読んでいただくと、履修登録等の基幹ネットワークシステムは構築されているが、量も含めたWiFi環境の維持管理及びICTリテラシー教育というのは適切に行われたんですかということを知っているわけなんです。これは(法人に)聞いてください、それで回答を見て皆さんにお返しして、また●●委員からもご意見をいただくというふうに、よろしく願います。

それから63番、メディアプラザ、これはaということ。それから64番、県短との施設の円満な共同利用ということ、これは当たり前ですからaということ。

あと、衛生委員会を開催するのに、学生と教職員のキャンパスにおける安全衛生、これもaということでよろしいと思います。

それから健康診断で、これ●●委員がbなんですけれども、これは・・・

○●●委員

すみません、コメントで書いたんですけれども、受診率98%をどうするかという話で、今、結核とかいろいろ起こっている関係で、結構、教職員の健診ってかなり厳格にどこの大学もやるようになっていて、ちょっとそのあたりも含めて、でも一応、その98%まで行っているからaでいいよねという判断もあると思うんですけれども、そこをちょっとどうすればいいかなというので吟味していますが、全体が・・・

○山沢委員長

これ一人でしょ、実際は。一人じゃないですか、二人ぐらいですか。これ教職員です。

教職員全部で、今、100名ぐらいですか。

○●●委員

いつでもかまわないので。

○山沢委員長

全体としてはaでもかまわないということですが、コメントは是非つけてください。

今、おっしゃられたように、他の大学も、健康診断を受けない教職員がいるんですよ、病院でね。呼びつけて言ってもね。だからすごくよくわかるんです。やっぱりけしからんことですよ、学生のことを考えてくれというコメントだと思うんですね。

それから67番は、これは当然でございますので、aということ。本当はこういうのはsにならなければいけないんでしょうけれども、aでございます。

68番、学生教職員が通学、安全ということでaということで、これ、私が一番心配したのは寮生はほとんど自転車で通学するんですけれども、もう本当に心配なんです。是非安全運転には十分気をつけていただきたいということでございます。

それから69番、災害、危機管理ですね、これaです。

それから寮生活での健康留意ということでa。

海外プログラムの研修中の事故等のリスク、備えている、これ大分苦労されたようで、aということで。この情報セキュリティに関する意識の向上ということなのですから、これaということなのですから。

学生も含めた形の意識の向上というのは、なかなか大変だと思うのですが、本当はその辺の具体的な方法が出てくるといいのですけれどもね。

県の職員の中でやっているようなことをそのまま横に流してもだめなのですから、学生用ということで、他大学の状況なんかをちょっと見ていただきたいという気持ちです。

それから73番が人権委員会、パワハラ、ハラスメントの問題ですね。これはaということです。職員の倫理規定、これもaです。

それから環境方針もaということなのですから、これは是非入れてください。学生を巻き込んだ環境運動というのをぜひ展開していただきたい。寮だけじゃなくて、本校のほうもですね。学生の環境委員会というのは必ずうまく動きますから、学内、県内がそういうふうに他の大学はできていますので、是非そのところを配慮いただいて、というところで、評価はaということです。

最後に、最後のページのところに、●●委員から非常に前向きないいコメントが、自己点検・評価について2つ出てきて、それから全体評価について2つきちんと、本当はここを読んでほしいものを書いてございますので、これはぜひ別記という形でこういうふうにして書いていただきたい。これは書いていただきたいというのは、大学に読んでいただきたいというふうに思いますので。

全体を通して、まだ全部決まっているわけじゃございませんで、コメントを聞いてからというのも幾つかございます。いかがでございましょう。

○●●委員

大学からこちらの質問の回答が出てこないというのがよくわかりましたよ。

○山沢委員長

ではまだ、この後ももう1回はきちんと集まれる機会も8月19日にありますので、そのときまでに、出来ることは全部やっていくというふうなことで、評価は、幾つかのコメント、10ぐらいあり、コメント待ちというところもありますけれども、一応、これでできたということでございます。

この後のスケジュールはきちんとした全体評価を、皆さんのご意見を入れながらつくりまして、それで大学に評価案を示しまして、大学の意見を伺うというか、本当はちゃんと説明いただかなければいけないんですけども、特に文部科学省の場合は評価の案が出て（国立）大学では何も言えないんですけども、これだと一応、大学側がこれが気に入らないという意見を言えるようになっているんだと。

○生駒委員

基本方針にそう書いてあります。

○山沢委員長

評価委員会からの評価に対する法人の意見を聴く機会を設けるのは、ではそれでいいんですね。そうなんですか、いいですね。やさしいなあ、だ、そうでございます。

お盆明けに評点の調整とコメントの確定、最終確定を行うということでございます。そのために8月9日から16日までの間、お盆中でございますけれども、委員の皆様にごコメントの確認やご意見をいただき、19日に改めて審議、確定ということになるわけです。

ただ、今日出ましたコメントについては、少しでも早くフィードバックをしますので、よろしく願いいたします。不手際な進行で申しわけございませんでした。

○山浦委員

今回はどういう形式の書類を出すんですか。

○事務局

以前の形式は、この資料番号4番でございますけれども。

資料の4番でございますけれども、これを少し文章にした概要版にして、その数値を評価活動を書くとか、そういったことを示した形になっております。

○事務局

総項目別にはわからないんですね。

○山沢委員長

次回にはわかるんですか。

○事務局

全体の資料で、資料4の形にしています。

○山沢委員長

資料4の、これで次回進めると。そこに落とし込むとこれを載せる、載せないとか。載せると言っていたコメントですね、それはここに出てくるんですか。

○生駒委員

課題となる項目、それとも評価委員会。

○山沢委員長

これ、評価委員会の小項目評価と、そのコメント・・・これは次回へですね。

○生駒委員

それは県議会に報告しないと。

○山沢委員長

出さなくなる。

○生駒委員

評価はいずれにしても出すんだけど、コメントはどう出すのですか。

○事務局

議会に出すのは、資料4の概要版なんですけれども、それ以外に、もう少し詳細版、細かいコメントも入れたものをつくりまして、そちらはどのような形になるかという、ホームページのほうに載せるという形なんですけれども、議会へ報告するのは概要版だけです。そういうふうになっています。

○生駒委員

今回は、委員のコメントを整理したのが出てくるということですね。それを資料4のまとめるのには次回でもいいと。

○事務局

そうです。

今回は資料4をイメージ原案して出します。

資料4もつくりますし、それから資料をつくと。

コメントも書いたものを出します。

○山沢委員長

評価委員がこれも、はい。

このときにこのコメントというのは全体のコメントですか。ここはわからないだけ

ども、全体のコメントとして委員会としてはこういうコメントをつくるのは当然ですから。

○山浦委員

資料6のホームページをという・・・、

○生駒委員

議会で資料4は出るんですか。県への報告書は。

その地方独立行政法人法の実績を伝える評価の考え方として、評価の結果を通知しなければならないというのが資料4ですか、評価の結果を報告しなければならないというのが資料4ですか、5ですか。

それで業務運営の改善その他の監督をすることは自由、業務運営の改善、その他の勧告できるというのは、広い意味でですか。

○事務局

もし、そこで勧告というようなコメントが出るのであれば、もし、そういう事態になれば、それを含めてということ。

○生駒委員

何のコメント、その改善勧告を載せるかというのは次回ですね。

○事務局

すみません、勧告というのは、本当に何か由々しき事態があつて、こういうことを、ただ監査なんかはございますけれども、何か厳しくこのように是正しなさいというようなことを書くような事態になったときに、ここに書くといということでございます。

○生駒委員

改善も入っている。コメントの中には提案が結構入っていると思うんですね、それをどう受けとめてくれるのかということ、それと、そういうものに対して大学はどう対応したかということは、委員の方の指摘というか、意見と課題にこう対応しましたと他大学のホームページに載っていますよね。しかしフォローアップする仕組みが、我々の委員会には一切ないです。それは、言い放しなんです。大学はどう受けとめ、どう対応したかもないんです。

○沼尾委員

よろしいですか。この資料4の4ページのところに、全体評価というページがあつて、中期計画の進捗はこれこれだと、多分、結論を出さなければいけなくて、その後に特筆すべき事項とか、取り組みの議題とか、課題となる事項というものを多分、特にここに特筆するということだと思うんですけども。

今日は、ここをどうするかという議論が全然なくて、つまり次回やるということでもいいのかということと、今、生駒委員がおっしゃられたことと言うのは、多分、ここに書いて

いって、且つ、ここに書いた上で、これに対する取り組み成果がどうだったのかということ、例えば1年後にはきちんと明記することということも含めてここに明記するとかという、そういう書き方もあるのかもしれないというふうに、今、思いましたが、ただ、その中期計画の進捗について評価するための全体評価の議論との、今日、全然行われていなくて、このあと1回で大丈夫なんだろうかと。

○事務局

すみません、実は、ここも含めて実は事務局案を持っていたんですが、今日の議論を踏まえるとちょっと、とてもそこまではいかないと思いましたが、今日は議論はできないということで整理しております。

○生駒委員

今、沼尾委員が言っていたんですけれども、今後の取り組み、抱えている事項と課題、同じ事項とかね、書いたものは、翌年度の自己点検の評価項目に入れてほしいんですよ。そうすると、次年度計画に、私、いつも、公表済みのものにしばられてしまって、そこから、それしかやらないのかという話なんですね。是非入れてほしいんです、ここは、計画の中に。

○山浦委員

この報告書と課題というのは、事務局で幾つぐらい書けますか。いや、今日書いたのは全部書けないと思います。いや、書けないと思います、多分。

今から多分、3つか4つしか、多分、想定していないんじゃないかと私は思っているんですけれども。

○生駒委員

この委員会の報告書のあり方を、共通認識しておきたいんですけれども、要は形式的な、追認型ではだめですよ、ここの大学の報告を見ても、要するに自己点検をやったら追認すると。お墨付きを与える、担保する、それはいいんです。けども、我々は大学の第三者委員会として改善部分があれば、将来、こうやってほしいというようなコメントなり提案をしているわけで、それを、どう報告に盛り込むかというのが共通認識だ、そういうテーマで話し合っていないんです。

○山浦委員

5番目のところの評価委員からのコメント、コメントというのは課題というのか、提案というのか。

○生駒委員

これは今日出たコメントだと思うんです。

○山浦委員

多分、こういう、あそこには改善というのを実際に答えていて、これをその大学や次年度の評価となるという、これ改善なり何なりしてもらおうということ、私は思うんですけども。

○事務局

本当なら知事にこう渡す、想定しているイメージは資料4を想定をしています。

○生駒委員

そこだけ、知事が考えていることもあるでしょうし、意見交換できるのが一番いいんですね。言わなくてはいけないこといっぱいあるから、大人しくしています。

○山沢委員長

8月19日は大変ですよ。4～5時間かかって1回で終わらない。

今日は19日で、9月の19日ぐらいにしますか。もう一回できるかな。

○沼尾委員

あと、2回という感じですね。

○生駒委員

何か、形式的に決められているんですか。

○事務局

そうですね、9月18日ぐらいに。

○生駒委員

法律にはないんですよ。

○事務局

9月の県議会の開会日には、報告書を作成します。

○生駒委員

議会ね。どの、事業報告書でしたか、あれはどの報告書でしたか、あれはいつ提出を、財務諸表と一緒に提出する。

○事務局

その事業終了を目安にということではかかっていないので。

○生駒委員

事務局としてはどう考えていますか。



○事務局

形としてはもういただいているという、県にはいただいているということです。

○生駒委員

いやいや、大学はいつ提出するのですか。

○事務局

だから3か月以内なので、6月30日までです。

○生駒委員

でも、まだ公表はしていないけれども、その県議会は出てくるか。

では実質報告はどう、事務局が言っているのは総務省と財務諸表、法律で書いてある。

○事務局

大学が3か月以内につくって出すものは、もう県に届いています。前年度の業務実績・・・

○生駒委員

実績報告の概略版だよ。それはもう出ているということですか。

○事務局

そうですね、はい。自己点検ではなくて、事業報告書とか財務諸表とか、そういったものはもう届いています。県のほうには。

○生駒委員

それも是非見たかったね。

○事務局

それはいずれ公表されますから。

○生駒委員

それは、今、言っている、報告書というのは概略版なんですね。そこには大学の方針であり目的なりも、学長の思いが込められている。

○事務局

あれはいずれ公表されるものですので。また、お配りいたしますので。

○生駒委員

では、もう提出になると。

○山沢委員長

8月19日で終わりますか。そこは、その1カ月後くらいですよ、知事に出すのは。

もう一回、やることは考えておかなければ、19日だから、まだ8月中、十日ぐらいあります。

○増田県民文化部長

委員の皆さんには申し訳ないのですが、今、お話を聞くにつれて、大変なものをお願いしてしまって申しわけありません。

あと、今日議論の、皆さんのお話を聞くにつけても、大学の当事者というかがいたほうがいい。

○山沢委員長

出来なければしょうがない。こっちで判断してやっちゃってもいいんだけども。

○増田県民文化部長

両方あるんだけども、次回、できればいつていただいたほうがいいのかという気もしました。

○生駒委員

こちらの勘違いもありますし。指摘が間違えていることもあるし。

○沼尾委員

予防的に切り分ける必要があって、つまり評価する前のところでのヒアリングをもっと徹底してやらなければいけなかったのが、前回ゆるくて、既に評価段階に入っているので、この場でまた、その大学の方にいらしていただいてこれで議論するというのはやりにくいので、それぞれ、例えば2部制にして、全体、入らしていただいて、そこで聞くことだけ聞いて、確認した上で退席していただくとか、あるいはよく、国のほうでやっているのは別室で待機していただいていて、議論してわからなくなったら来て、話を聞いて、また退席という、そういう形を取ったりしているところもあります。

○増田県民文化課長

それでも、今日も待機していただければ入れたというのがありますよね、

○沼尾委員

そうですね、そこだけ聞いて、またというようなことはよくやっていました。

○山沢委員長

19日と、もう1日何とかして早めに。やらなくて済みましたということなら、それでいいのですが。

○山沢委員長

本日、私が務めるのはもう終わりです。事務方から、何か最後のところがあれば、特にないですよね。

○増田部長  
特にないです。

○新井企画幹

山沢委員長、議事の進行ありがとうございました。  
次第の「4その他」でございますが、委員の皆様から何かございますか。

次回委員会は、8月19日（月）同じく県庁議会棟ですが、会議室は4階の401号会議室となります。委員の皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

本日は大変長時間にわたりご審議をいただきありがとうございました。

以上をもちまして、「令和元年度第2回公立大学法人長野県立大学評価委員会」を終了いたします。本日はありがとうございました。